

琵琶湖保全再生対策特別委員会 行政調査

1 調査日 平成29年1月17日（火）

2 調査の概要

（1）滋賀県漁業協同組合連合会（大津市におの浜）

琵琶湖の漁業は、独自の発達を遂げてきた伝統漁法が受け継がれ、季節ごとにさまざまな魚介類が漁獲されてきた。しかしながら、近年は水草の大量繁茂や外来魚の繁殖等により、在来魚の産卵、生育が妨げられ、水産資源が大きく減少し、琵琶湖全体における漁獲量は、昭和30年には1万トンを超えていたが、平成27年は千トンに満たない状況である。また、ライフスタイルや食生活の多様化等により、琵琶湖産魚介類の消費・流通は極めて限定的なものとなっており、在来魚介類の増加、漁場の再生や消費拡大等が課題となっている。

本県では、琵琶湖の保全および再生に関し実施すべき施策を総合的に推進するため、「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の策定が現在進められており、水産資源の適切な保存および管理についても施策に位置付けることが予定されている。

このことから、滋賀県漁業協同組合連合会を訪問し、琵琶湖における漁業の現状について調査を行うとともに、同連合会の皆さんと県民参画委員会を実施し、水産物の需要拡大に向けた取組や担い手の育成、水産資源の継続的な確保について意見交換を行った。

